札幌国際大学生涯学習センター
2025 初夏・公開講座 報 告

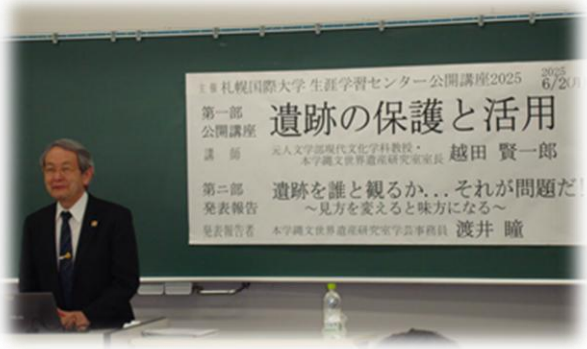
爽やかな初夏のもと、社会人受講生や卒業生、本学大学院生も聴講する公開講座となりました。

公開講座）遺跡の保護と活用

講師:縄文世界遺産研究室室長　越田 賢一郎先生

「身の周りに目を向けること、それが世界遺産を理解する始まりです」

2021 年 7 月 27 日に世界遺産登録となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」も然り、日本の世界遺産を世界の世界遺産と比較すると、各地で異なる環境のもとに、それに適した文化や文明が生まれたことがわかります。



遺産はその地に生きる人にとっては「ふるさと」のようなものだと講師は話します。

その地特有の気候や植生、人の生業や信仰、生活文化にも目を向けることが、今にもつながるその地の遺産を理解するきっかけとなるのです。遺跡の「保護」と「活用」に生かすためにも、その地域の特色を知る視点を持つことが大切だと伝えられました。

発表報告）遺跡を誰と観るか…それが問題だ！ ～見方を変えると味方になる～

報告発表: 同研究室学芸事務員　渡井瞳さん

遺跡と地域に付加価値を与えうる資源について、調査した地域を主に、結果を発表する報告でした。

気が付かない資源の報告に加え、後半に紹介された調査地域のイベントや楽しみ方、名物などの紹介は、受講生にとっては単なるガイドよりも一層魅力を感じられたのではないでしょうか。今後、その地への訪問を計画したくなる報告でした。

～　講座・発表報告後の受講生からの話題　～

札幌市は他地域に比べて遺跡があっても、身近にそのことを感じる環境が少ないことを憂いた話題の他、遺跡の地では縄文人の気持になって見学者が栗を拾い、その栗を使った観光名物を出すなどの提案に、講師が応じる時もあり、最後は談笑しつつ講座が終了しました。

札幌国際大学生涯学習センター事務室